

対 談

大学を活かしたまちづくり

学長

ちづくりを語る

開学以来最大の改革として完全4年制化を進めている新見公立大学・短期大学。

この大きな改革を今後のまちづくりにどのように活かしていくのか。人口減少や少子高齢化などの課題を抱える新見市にとって大学が果たす役割は何なのか。

池田一二三新見市長と公文裕巳新見公立大学・短期大学学長に、大学と新見のまちづくりをテーマに対談いただきました。

司会 お二人には、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。まず、市長、就任1年を迎えての感

想をお聞かせください。

池田 市長に就任し、皆様のご期待



新見公立大学・新見公立短期大学学長

公文 裕巳（くもん ひろみ）

1949年生
岡山大学医学部卒

1995年 Thomas Jefferson Medical College客員教授
1998年 岡山大学医学部泌尿器科 教授
2015年 新見公立大学・短期大学 副学長
2016年 新見公立大学・短期大学 学長



市長

大学と新見のま

新見市長

池田 一二三 (いけだ ひふみ)

1953年生
倉敷中央高校卒

1999年 旧哲西町議会議員
2005年 新見市議会議員
2016年 新見市長

にお応えしたいとの思いで、一生懸命に取り組んでまいりましたが、あつという間の1年だったと感じています。

市政運営の難しさに直面する一方、市民の皆様からのお言葉に勇気づけられ、議員の皆様にご支援いただき、私なりに新しい時代へ歩み始められたと思っています。

人口減少対策や「健康で、住んで良かったと思えるまち」の実現に向けて取り組む中、市民の皆様と一緒に地域づくりに取り組む体制の強化を図ってきたところです。そうした

取組も徐々に広がりつつあると感じているところです。

司会 学長は、副学長時代を含め、新見での生活も2年8か月余りとなられました。新見の印象などをお聞かせください。

公文 正直、新見の冬が寒いということはあるんですが、四季折々の変化に富んだ、豊かな自然がある素晴らしい所だと思っています。

中世新見庄の歴史や御神幸武器行列の伝統を守り続けるという律儀な文化を持ったまちで、大学もそうした歴史と文化的背景に守られて発展してきたと思っています。

学生たちは、地域の方と交流させていただく中で、人間的成長も図れており、大変感謝しています。

司会 ありがとうございます。

これから、大学とまちづくりについてお話いただくには、大学の成立を知っておく必要がありますが、その辺りを、学長からご説明いただけますか。

公文 ご存じのように、新見公立大学・短期大学の前身は1980年に開学した新見女子短期大学です。

1970年代、新見に公立大学を創ることが計画された際、当時の自治省からは、この小さなまちで大学



を持つことは無理だと言われたと聞いています。

そこで考えたのが、旧1市4町で設置した阿新広域事務組合での大学設置です。組合立の大学設置は、全国初の取組で、当時の方々が知恵を絞り、公立の新見女子短期大学を創ったということです。

1980年の開学当時は、看護学科と幼児教育学科だけの短期大学でしたが、その後、地域福祉学科開設や男女共学化、4年制の看護学科設置という形で発展してきたというのが、大学の歴史です。

そして、今年4月には、看護学部を健康科学部に名称変更し、新たな改革を計画しているところです。

1学部3学科の4年制へ

司会 大学・短期大学が、新見に果たしてきた役割や効果を、市長はどのように感じられていますか。

池田 開学から多くの学生が新見に来られ、卒業後、全国で活躍されており、大学が果たしてきた役割は非常に大きなものがあると思います。

また、ご縁があつて新見に嫁いだ方や就職された方もおられ、本市の振興にも大きな効果があつたものと思

新見公立大学・短期大学の歩み

- 1976年 故赤木孜一市長が短期大学設置を表明
- 1978年 新見市立女子短期大学創設準備室発足
阿新広域事務組合立短期大学創設準備室に名称変更し新発足
- 1980年 新見女子短期大学開学
(看護学科・幼児教育学科)
- 1996年 地域福祉学科新設
- 1999年 新見公立短期大学に校名変更
(看護学科・幼児教育学科共学化)
- 2000年 地域福祉学科共学化
- 2004年 地域看護学専攻科新設
- 2008年 公立大学法人化
- 2010年 新見公立大学開学
(看護学部看護学科設置)
- 2012年 地域看護学専攻科廃止
- 2014年 大学院開学
- 2015年 助産学専攻科開設
- 2017年 看護学部を健康科学部へ名称変更

つています。

今も、多くの学生さんに新見で生活していただいています。

公文 そうですね。今春時点で、全学生468人の内、9割近くが市内に下宿しています。

池田 多くの方に新見にお住みいただき、地域経済への効果や、アルバイトなど雇用の面でも活躍いただ

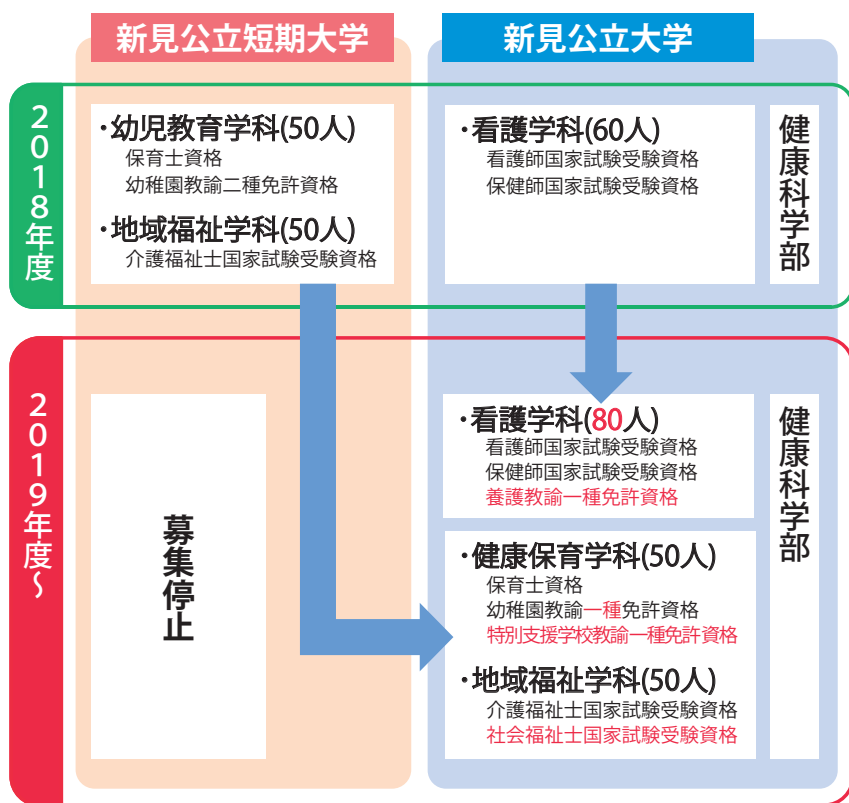
ているところです。

また、大学があることで交付税収入もありますので、市にとって大きな財産であると思っています。

教育は、いつの時代でも主要な事業の一つであり、さまざまな苦難の中での当時の決断は称賛すべきものと思っています。

公文 新見公立大学は、文部科学省が設けているGP（グッドプラクティス）を7つも取得していることも特筆すべきことです。グッドプラクティスというのは、大学教育改革の模範となる取組を認定するもので、

こう変わる！新見公立大学・短期大学



新見公立大学の努力が評価された証でもあります。

現在89校ある公立大学の大半は、都道府県立や政令指定都市立で、人口3万人というまちにある保健福祉系大学は、北海道の名寄市立大学と新見公立大学しかありません。歴代首長の先見性と知恵、大学教職員的情熱と努力によって発展してきたまれな事例として、国の高等教育関係

者に高く評価されているところです。

司会 2019年4月に新たな新見公立大学として生まれ変わるということですが、どのように変わるのでしょうか。

公文 短期大学の2学科の募集を停止し、2019年4月に、大学の健康科学部に4年制の健康保育学科と

地域福祉学科の2学科を開設し、現在の看護学科を含めて1学部3学科に移行します。

具体的には、看護学科は定員を60人から80人に増員し、併せて、養護教諭養成課程を設置する計画です。これにより看護師と保健師ないし養護教諭の資格が取れることになりました。

健康保育学科と地域福祉学科の定員は、それぞれ50人と変わりませんが、健康保育学科では、特別支援学校教諭養成課程を設け、発達障がい

市全域をキャンパスに

司会 完全4年制大学への移行が柱となっているようですが、何故、4大化を考えられたのでしょうか。

公文 新見女子短期大学の開学時から、いかに学生を集めるかが課題だったと思います。そのため、大学は質の高い教育と洗練された教育方法の実践に努めてきたところです。結果、看護学科は、北は北海道、南は九州・沖縄から学生が集まる全国区の大学となっています。短期大学も西日本を中心に広く、新見での学びを求めて集まっている状況です。

しかし、今後には課題もあります。少子高齢化が進む中、来年から大学

児への対応と支援、病児保育を学修する体制を構築します。

地域福祉学科では、社会福祉士養成課程を新設します。介護福祉士コースでは、介護福祉士と社会福祉士の2つの資格を取得できます。また社会福祉コースでは、法学、政策科学、防災、そういった幅広いカリキュラムを通じて、地域共生社会の基盤を担う人材を養成する計画です。

こうした大幅な見直しにより、学生数は、現在に比べ280人増加する予定です。

進学者は減少に転じ、以後13年間で約10万人が減少すると予想されています。

もう一つ、改正学校教育法が成立し、2019年4月から、いわゆる専門学校が大学化していくことになりました。18歳人口が減るのと同時に大学そのものが大競争時代に入っていくと思われれます。

正直、新見はこうした競争に地理的に有利とは言えない中で、いかに改革し、大学をどういう形にするかが、大学間競争を生き抜いていく上で大事になってくると思います。

新見は、少子高齢化・人口減少などの課題を抱える、いわば課題先進



「本市が持続、発展していくには
地域と大学、行政が連携した
地域共生のまちづくりが必要」

地で条件的には不利ですが、逆転の発想で、課題先進地である地の利を生かし、新見市全域をキャンパス（学びの場）とし、中山間地域を拓く「健康科学部」として、人に優しい地域共生社会の構築を検証しながら、社会基盤を支える専門人材の育成を目指していきたいと考えています。

司会 学長から、詳しくご説明いただきましたが、市長は、どのようにお考えですか。

池田 大学は、開学以来、学科の新増設など時代のニーズに応じた変革を進めていただながら、優秀な学生を輩出していただいています。

今回の4年制移行は、より高度な教育を目指すことで、大学の魅力や価値を高め、結果、学生の確保も有利になっていくのではないかと考えているところです。看護、介護、地域福祉、幼児教育を担う人材は、今後ますます求められていくものと思っておりますので、市としても支援し

ていきたいと思っております。

地域共生社会の実現が急務

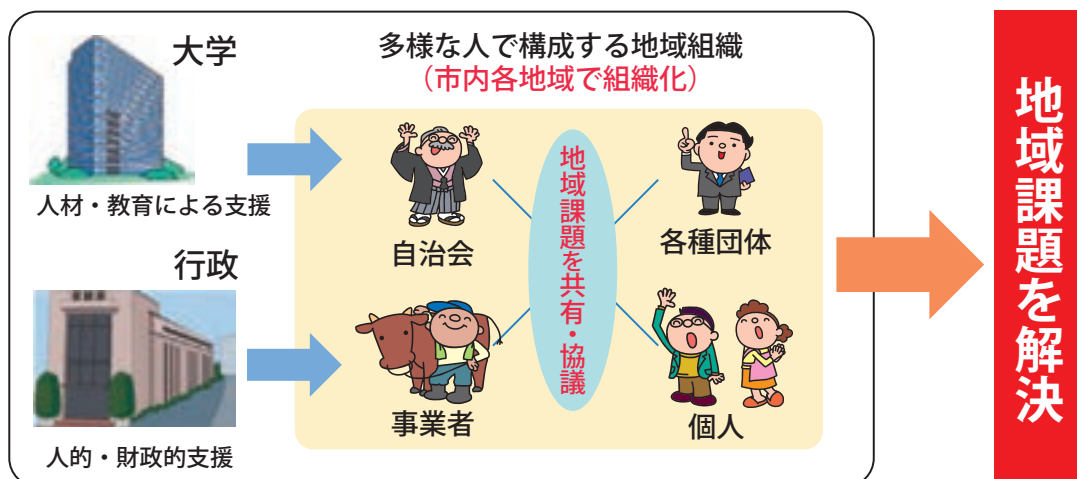
司会 市では、少子化や高齢化が進行する中で、さまざまな事業を進めておられますが、新たな大学に期待することや新見がどう変わっていくのか、どう変わっていくべきなのかについてお聞かせください。

池田 私は、人口が減少していくと予想される本市が、将来にわたって持続・発展していくには、地域が主体となつて地域課題を考え、その解決策を探り、行動していくシステムが必要と考えています。

全国で進みつつある「小規模多機能自治」といったものに近いものと考えています。そこに、大学の人材や知恵を提供いただくことで、他地域にはない「新見市版地域共生社会」を築くことができるのではないかと考えております。

そうした点から、今後、「大学を活かしたまちづくり」に取り組んでいきたいと考えているところです。

新見市版地域共生社会（仮称）イメージ図



司会 市長から「大学を活かしたまちづくり」に取り組みたいとお話が出ましたが、大学はどのように関わっていかれるのでしょうか。

公文 まちづくりをするというのは、大学本来の役割ではないのですが、新見の地の利を活かすという点から考えると、大学が地域共生社会づくりとしてのまちづくりに関与していくことが、新見公立大学の役割とも考えられます。

今後、健康科学部では、健康科学と地域学によるコミュニティデザインを学修する予定です。新見というフィールドで課題解決を通じた実践的教育を行っていくことになります。将来、保育、看護、介護、福祉といった地域共生社会を支える人材が生き生きと活躍するまちになっていくと思いますし、そうならないと大学も市も持続可能な未来が構築できないと思っています。

これを具体化するため、今後、教育支援センターとか、地域共生社会推進センターといったものを創っていかないといけないと思いますが、それらは人口3万人のまちだからでざる取組といえます。

普通、4大化した大学は付属学（園）校を作り、学生の教育に使っていきますが、教育支援センターでは市内7つのこども園、6つの保育園と連携することで、市内全ての子

どもたちを対象に地域で育む子育て支援を実現したいと考えています。もう一つ、中高生にいかに地域愛を育てるかということも新見市の課題です。教育によるまちづくりという点について、大学では今回、各学科の推薦入試に5人ずつの地域優先（新見市内）枠を作っていく計画です。3学科で1学年15人、4年制で60人の学生が、希望すれば地元で大学に進むことができる。子どもの

ころから地域愛を育みながら中学、高校、そして新見公立大学に進み、新見のまちづくりを担う人材を育てることで、大学がまちづくりに関与していくということになると思います。

池田 「大学を活かしたまちづくり」を進めて行くことについて、学長からいろいろ伺ったところですが、大学と協力して、まちの将来の姿をしっかりと描いていく必要があるのではないかと思います。大学と市の間で、そうした組織づくりができればと思っていますし、大学支援の専任職員といったものを置くことも考えていきたいと思っています。

4大化により増える学生さんが暮らしやすい環境整備についても、これから学生、大学と一緒に考えていきたいと思っています。

司会 学生の皆さんが暮らしやすい環境づくりと言われましたが、旧新見市では市民が中心となつて学生を応援する組織がありました。今は、そうした組織がなくなっているのですが、大学に対する市民の関わり方をどのようにお考えですか。

池田 開学して40年近くになり、市民の中では、大学があることが普通になっていますが、新見のような小さなまちに大学があること自体、奇跡的なことで、地域の活性化にどれほど貢献しているか、改めてお考えただきたいと思っています。

大学が4年制に向かう中で、学生さんに対する市民の気持ちも少し変わってきている部分があると思います。商工会議所青年部の方が、学生



「地域共生社会づくり、まちづくりに関与することが、新見公立大学の役割」



司会 角川 宣行
(新見市報道委員会委員長)

「市民ができることを考え、
大学や学生を応援していく
ことを真剣に考える時だと思ひます」

を市内の観光地に案内するツアーを企画されたり、地域で米作りを一緒にするといった状況もありますので、市民の方が中心になって学生さんを応援するという気運が高まっていけばと思ひつています。

公文 そうですね。たぶん市民の皆さんは、大学がなくなるかも知れないといった危機感を必ずしも感じておられないと思ひます。4月には必ず新入生が来るということが40年近く続いており、大学は放つておいても大丈夫、人口が減つてもなんとかなるという感覚だつたと思ひます。しかし、このまま放つておくと、大学は消滅するかも知れません。そうならないためにも、市民全体で大学を、学生を応援する、大学はこのまちを良いまちにし、持続可能なまちにしようと思ひ努力する、そうしたお互

いがウインウインの（双方に利益のある）関係にならないといけな思ひます。

司会 私たち市民も、学長が言われた危機感も理解しながら、大学が大切であるということを再認識して、いろいろな応援ができればと思ひつています。

最後に学長から、新見公立大学の将来についてこれだけは言つておきたいというお話がありましたらお願いします。

公文 大学は、強い危機感をもつて、4大化という大きな改革に取り組んでいます。

4大化にあわせて、「人と地域を拓く 新見公立大学」をテーマに大学をブランディングしないといけな思ひつています。このブランド化

に成功するか否かというのは、スタートして1年から3年で決まります。2019年、2020年に向けて持つていく力を全て発揮し、良いスタートが切れれば、新見公立大学は新たな歴史を刻むことができるものと思ひつています。そういった意味で行政だけでなく市民の皆さんにこの状況を理解いただいて、新見公立大学は自分たちが育てるんだ、学生を守り育てるといふのは自分たちの責任だといふような形で、応援いただけるとうがたいと思ひつています。

司会 ありがとうございます。

市長は市民の代表として学長の思ひに對して一言お願いします。

池田 危機感を持つて大学を支援していかなければと思ひつています。特に、市民とともに大学を守り育てる、そうした強い思ひを持つて進めていくということが大事であると感じたところでは。

公文 これからは、実践を通じて課題解決能力を養成する教育が重要になつていくと思ひます。

学生と行政と地域コミュニティが連携する中で、大学がある新見だからこぞできるまちづくりができれば、新見が、中山間地域の地域共生モデルになつていけるのではないかと思ひつています。



新見公立大学新棟完成予想図

司会 ありがとうございます。
今後、新見市が進めようとしていく「大学を活かしたまちづくり」を成功させるためにも、行政、大学、市民が協働して取り組んでいくことが必要と感じたところでは。お二人の熱い想ひをお聞きして、非常に力強く思つたところです。本日は、大変ありがとうございます。

※この対談は、2017年12月に进行了ました。